

富士市中小企業景況調査結果

令和6年度 第3四半期【令和6年10月～12月】

令和7年1月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率66.0%)を対象に、「令和6年10月～12月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和6年7月～9月 今期…令和6年10月～12月 来期…令和7年1月～3月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き		↗改善	→横ばい	↘悪化	
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)	来期予測	
業況	▲11.6	↗	▲6.1 (▲11.3)	↘	▲16.1
売上	▲7.2	↗	11.4 (6.5)	↘	▲1.5
採算	▲14.2	→	▲10.7 (▲20.2)	↘	▲19.9

今期調査では、全産業合計の業況DIが5.5ポイントの増加、売上DIが18.6ポイントの増加、採算DIが3.5ポイントの増加となった。来期の予測については、業況・売上・採算DIいずれも悪化の予想となった。業種別の来期業況DIは、小売業は上昇、製造業・建設業・卸売業・サービス業は下降を予想。売上DIは、小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業・卸売業・サービス業は下降を予想。採算DIは、小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業・卸売業・サービス業は下降を予想。

全体を通して、「人手不足」に関するコメントが多かった。また、「物価高騰は続いており、販売価格を上げてでも対処しきれない」という趣旨のコメントも多かった。この他に米国新大統領トランプ氏の就任に伴う国際情勢の不安定化を懸念するコメントも目立った。

経営上の問題点では、「商品、原材料仕入れ価格の上昇」「人件費高騰」「人材不足」が上位を占めた。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業・卸売業・サービス業は上昇、建設業・小売業は横ばい。

来期は、小売業は上昇、製造業・建設業・卸売業・サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲19.4	↗	▲10.5 (8.4)	↘	▲15.8
建設業	4.0	→	0.0 (▲15.4)	↘	▲12.5
卸売業	▲14.3	↗	0.0 (▲10.5)	↘	▲28.5
小売業	▲26.6	→	▲29.5 (▲44.5)	↗	▲5.9
サービス業	▲4.5	↗	3.3 (▲12.0)	↘	▲16.7
全産業	▲11.6	↗	▲6.1 (▲11.3)	↘	▲16.1

〔売上高のDI〕 製造業・卸売業・サービス業は上昇、建設業・小売業は横ばい。

来期は、小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業・卸売業・サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲16.7	↗	0.0 (13.9)	↘	▲5.3
建設業	0.0	→	4.0 (▲11.6)	→	4.0
卸売業	0.0	↗	33.3 (15.8)	↘	▲19.1
小売業	▲26.7	→	▲23.5 (▲11.1)	↗	5.9
サービス業	9.6	↗	36.6 (20.0)	↘	6.6
全産業	▲7.2	↗	11.4 (6.5)	↘	▲1.5

〔採算のDI〕 サービス業は上昇、製造業・建設業・卸売業・小売業は横ばい。

来期は、小売業は上昇、建設業は横ばい、製造業・卸売業・サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲22.2	→	▲18.4 (▲8.4)	↘	▲26.3
建設業	▲8.0	→	▲8.0 (▲30.8)	→	▲12.0
卸売業	▲7.1	→	▲4.8 (▲15.8)	↘	▲28.5
小売業	▲40.0	→	▲41.2 (▲55.5)	↗	▲11.8
サービス業	4.6	↗	10.0 (▲4.0)	↘	▲16.6
全産業	▲14.2	→	▲10.7 (▲20.2)	↘	▲19.9

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「ペーパーレスが加速し、古紙が少なく生産コストを圧迫。今後もこの流れは続き、状況として好転は難しい。新たなる事業、素材への転換が必要だと考えている」「生産量は前年増で推移しており、販売単価の上昇で売上高も前年を上回る見込みである。加えて足元では、年末商戦に向け需要が上向くのではないかと期待感もある」「12月に入って発注が戻ってきた感はあるが、これは例年通りの事と思われる」「大手飲食チェーン店が紙ストローから植物由来のプラスチックストローに変更するなど、脱プラスチックによる環境保全志向とプラスチック製品の優位性との比較が激しくなると思われる。フロントランナーでもあった大手飲食チェーンの変更に伴い、脱プラスチックの流れが退潮に向かう懸念がある」「原材料の価格が落ち着いてきたが、安心はできない状況」「業務用家庭紙はインバウンドの影響で堅調である。PPC紙は依然として低調のままである」「需要が低迷しているため、今後起こり得る価格競争を危惧している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「為替次第だろう」「電気代等の補助金延長が来年4月以降には無くなり、物流の2024年問題の影響で更なる運賃の値上がりも必至。加えて諸々が値上がりとなる状況で、需要バランスを整え、今後のコスト上昇に備えるのが急務である」「家庭紙は現状維持すると思われる。PPC紙は低調のままだが、年度末には多少良好に進むと思われる」「人件費上昇で新規採用が難しくなっていく」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「自動車部品はまだ増加の兆しは見えない。工作機械、一般機械部品は動き出し受注の増加が見込めると思われる」「鋳物及び鋼材店自体の受注が減少しているため、全体的な仕事量が減少傾向にある」「3～5年後には、EV（電気自動車）ショックが起き、リーマンショックに匹敵する大不況が危惧される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「同業者に話しを聞いても良い話しが出てこない」「この2年位は仕事量が増加するが、早ければ3年後からEV化により部品点数が半減し、大量の失業者が発生する」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「金型業界全般に明るい兆しはなく、企業間格差が生じている。原材料価格の上昇も原因となっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来年度は、金型の受注及び金型部品などの需要が大幅に少なくなる見通し」「6月半ば頃まで見通し悪く、8～9月にかけて少しずつ改善に向かう兆しがある」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「トラック需要は、シャシーメーカーの新型車立上後、夏場以降低下した。また、2024年物流問題による輸送会社の買い控えも影響している。お客様の生産数減、在庫調整などで今期（10～12月）は、前年同期を下回る結果となる」「元請業者が大口の仕事のキャンセルを受けた影響で一時的に仕事量が減少する」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「日野自動車（中型低馬力車、大型高馬力車）の再認可に期待している」「一か月ほどの仕事減を乗り越えれば、通常の仕事量に戻ると思われる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「抹茶作りに関連した企業は伸びているが、緑茶作りに関しては低迷が続いている」「自動車業界では今年の新車種の立ち上げが少なかった為、例年に比べ業界の仕事が少なかった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来年度は自動車業界では新車種も増える見込みで、設備投資案件などが出てきている。ただし、EV化が進む事によって今後不要となる部品を扱う仕事は厳しさを増していくのではないかと考える」とのコメントが寄せられた。

『**食料品・飲料**』…「満額とはいかないが値上げを数回行っている。しかし、原材料価格、資材価格、人件費、エネルギーコスト、物流費などが今もなお上昇しており、更なる値上げが必至。それにより消費者の購買意欲は低下する。失われた30年間に慣れてしまった日本人が、良き消費サイクルを構築するためには10年単位の時間がかかるのではないかと考えている」「原材料価格、燃料、人件費の高騰が続いており、販売価格の値上げをせざるを得ない状況が続いている」「為替(円安)のダメージが大きい。特に食品原料の95%以上を海外産に依存している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「販売価格の値上げにより、販売点数が減少していくのではないかとと思われる」「増収減益を改善したい」とのコメントが寄せられた。

『**衣料・繊維加工**』…「前期に続き、中国需要の低迷により、輸出の停滞が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人件費、原材料価格の上昇が続くが、それに見合った値上げが困難な状況は続く」「引き続き厳しい状況は変わらないが、従業員の基本給を大幅アップして年を越せるようにできたことに一安心している」とのコメントが寄せられた。

『**印刷資材**』…「前年に比べコロナの影響が少なかった為、受注は多少上向きにはなったが、仕入価格高騰に対する商品値上げに苦労した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今後も多少は忙しくなると予想はしているが、適時値上げできるかが重要である」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「富士市は地域を引っ張っていく力のある企業がない。中小企業の多くは、有力な大手企業と共に成長発展していくしか無いと考えている。弊社は富士市に会社工場を構えているが取引先に富士市の企業が一社もない。それは富士市取引したいと思える大手企業が無いからである。その代わり隣の市である富士宮市、静岡市に弊社の主力取引先がある。これは富士宮には医療機器、静岡市にはEV化後も成長が見込める自動車部品を生産するリーディングカンパニーがあるからだ」「鈴川エネルギーセンターが12月3日に発電所の運用を停止した。負債額の大きさに驚いたが、それよりも煙突から煙が見えなくなった事に寂しさを感じた」「令和7年2月の富士市ものづくり交流フェア参加予定。今後も地域に密着した活動を継続する」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	21.1	47.4	31.6	▲10.5	下 降
売上高	34.2	31.6	34.2	0.0	下 降
採 算	13.2	55.3	31.6	▲18.4	下 降

【建設業】 景気ムード…【低調】

『**総合建設**』…「全国的に受注動向は増加しているが、人員不足により案件の取捨選択に追われる状況が生じている」「資材・燃料の高騰は高止まりとなっているが、民間受注工事においては、価格転嫁が非常に厳しく、利益確保が困難になっている」「技術者が不足し、人件費が高騰している」「建設業界全体的には良くもなく悪くもなく不変が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「民間発注工事の増加及び補正予算化による公共工事の増加が見込まれる。いかに有益な受注をし、業績を伸ばすかが課題となる」「イスラエルとハマス紛争の混乱が長引けば、資材・燃料の高騰がさらに深刻になってくる」「技術者がさらに不足していく」とのコメントが寄せられた。

『建設関連（資材・解体等）』…「大型物件が多く売上も伸びている」「原材料価格の値上げが毎年続いている。かろうじて販売価格への転嫁は出来ているが、出荷量の減少により、売上減少が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「需要の低迷が続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…「国の子育てグリーン住宅支援事業が発表され、補助金の額が大きくなったため、需要喚起の追い風となると思われる」「大きな変動は感じられない」「技術力のある現場の人間が減っていく事に不安を感じている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「12月に入って冬らしくなり冬物商戦は盛り上がると思うが、住宅関連では少子化と人口減で先行き不透明である」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…「原材料の値上げが厳しい」「発注数の減少、人材不足が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「人手不足と過当競争で見通しは暗い」「施主側の理解をいただけるよう値上げ交渉を続けていかなければならない」「業況は悪化していく」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…「業況に変化はほとんど無い」「解体工事は順調に受注できている。土木工事も順調に受注できているが、盛土条例の影響により造成工事等の書類の手間が増えて難儀している。リサイクルプラントはRC砕石の販売難で過剰在庫に陥っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「あまり明るい兆しは見えてこない」「来期までは受注できているが、その後は営業努力だろう。第13回事業再構築補助金が発表されたら、設備投資も考えている」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「天候に恵まれ、年末の庭木の手入れの受注が増加した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「不安で先行きは分からない」「公共工事の受注が止まり良くない」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「11月の大雨対応で費用が嵩む公共工事もあるようだ。大雨等がきたら自己防衛しないと不安である」「富士山夢の大橋が山梨のコンビニのようにならず地域の皆様にも来訪者の方にも愛される場所になってほしい」「役所物件をもっと増やして欲しい」「景況感が首都圏と地方との格差があり、地方までの波及にはまだ時間がかかりそう。コロナ明けの設備投資回復に期待はしたい」「どの企業も人材の確保が今後の命題である。この時期に地元に戻る若者の確保を確実にしていきたい」「依田橋のジャトコ依田橋寮の解体がいよいよ始まりそうだ。地域活性化につながるような施設が進出してくれることを期待している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	8.0	84.0	8.0	0.0	下降
売上高	28.0	48.0	24.0	4.0	横ばい
採算	12.0	68.0	20.0	▲8.0	横ばい

【卸売業】 景気ムード…【低調】

『機械器具』…「官公庁発注の工事が停滞している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「年度末に向けての追い込みに期待」「良くなる兆しは感じるが、具体的な案件は少ない。人員、人材確保が急務である」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「10～11月は売上、利益ともに5%程増えたが物価の値上げ分3%を差し引くと実績上昇率は2%程度となる。その要因は、検査ミスによる生産停止が解除され車の

販売が戻ってきたものと思われる。12月に入ってからは前年並みで推移している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「現状のまま特に増減もなく前年並みに推移していくものと予測」とのコメントが寄せられた。

『**金属部品**』…「コロナ禍で遅れていた設備投資が一巡した感があり、反動で新たな需要が減少している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「景況はピークを過ぎてしているように思われ、新たな設備投資の目的がぼやけている。来期は米国政権の影響を見定める足踏みの1年になりそうだ。大企業偏重の自民党がこのまま弱体化し拮抗の政治運営になれば、将来的にも国民生活は改善すると期待している」とのコメントが寄せられた。

『**建築材料**』…「建設現場では職人が足りず調整が難しい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「手持ちの物件は前年同期に比べ多い。見積りした物件をどれだけ価格を落とさず受注できるかが課題である」とのコメントが寄せられた。

『**製紙原料**』…「需要が出てきているが、コストの上昇による価格の転嫁が難しい。新たな商品開発が出来る所との差が益々開いてくる」「新聞など原材料回収低下による大幅な利益減」「メーカーの生産調整などで、方向性が見えにくい」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「原材料が入手困難になり、近い将来加工分野の廃業が始まる」「見通しは暗い」「すごいスピードでペーパーレスが進み、それを年末に痛い程実感している」とのコメントが寄せられた。

『**工業薬品**』…「供給過多による製品価格の下落」「値上げが未だ続くので、先行きの判断は本当に難しい」「製紙業界は、特に変化は感じられない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人員不足による生産性減少」「欧米諸国、中東諸国、ロシア、中国、韓国、北朝鮮と、どこの国をみても政治的に不安定である。経済がどのように推移するか本当に不透明である。国際情勢の影響は、我々中小零細企業にも直結していく時代なので、令和7年は難しい年明けになると思う」とのコメントが寄せられた。

『**再生資源**』…「建設現場では人手不足で工事が進まず、鉄スクラップを原料とする建設用鋼材の販売が弱い。輸出では、海上運賃が上がり、購入意欲が弱く下落している。銅系スクラップも太陽光発電所や電気自動車（EV）の電線の需要減少の為、国際相場が軟調となり、価格が押し下げられた」「世界的な鉄鋼製品の需要減が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「米国新大統領の政策方針や対中姿勢、関税問題が相場に影響を与える。不透明な中国経済や消費の動向も気になる」「引き続き、スクラップ需要減は続くだろう」とのコメントが寄せられた。

『**食品**』…「物価高騰対策に対応出来ていない。企業の離合集散が散見される」とのコメントが寄せられた。

『**その他**』…「ホームページを全面リニューアルしたところ、群馬県の福祉団体から注文が入り納品した。現在、SNSでの情報発信力は非常に大きい。今後さらに力を入れていきたい」「インボイス制度について一言不満を言いたい。インボイス（適格請求書）に必要な書類のために事務仕事が増え大変である。相手先がインボイス登録事業者であることが証明できれば、それで完結とはならないものか」「耕作地が減っていき、分譲住宅が立ち並ぶようになり、車の量が以前よりも増えた気がする」「ホンダと日産の合併により、地元の車関係企業の動向が気になる」「顧客側の選択肢の幅が広がった事により、競争位置の確定に奔走している会社がある。量で売るか特徴で差別化をはかるかのすみ分けが急激に加速している」「原料（古紙）商以外の業種での収入を早くなんとかしていかないと、思いつつ、なかなか進まないのが現状。前に進みたいけど、資本力が足りない」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	23.8	52.4	23.8	0.0	下降
売上高	47.6	38.1	14.3	33.3	下降
採算	23.8	47.6	28.6	▲4.8	下降

【小売業】 景気ムード…【低調】

『衣類』…「生地の出荷高が激減している」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品・飲料』…「賞与が出て消費につながっていないように感じる。値上げによる買い控えがコロナ後においても変わらない」「急須でお茶を入れて飲む文化が失われている。急須がない家庭が増えている。よってリーフを買う機会がない。国内ではリーフの供給過多は続く」「洋菓子業界は全体的に良く無い。過当競争に陥っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人口減と高齢化による消費量減は、今後の売り上げに少しずつ影響が出てくると思う」「リーフ離れは進む一方と見る。反面、ゆとりを持った世代や一部の高齢者たちが“やっぱりお茶だね”という感覚でニーズが生まれている。ただ少数派である」「アイデアでイノベーションを起こし続けるところが残る」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「空調関係（エアコン等）は、アメリカや中国に比べ日本経済が持ち直しの状況である為、販売台数は伸びてきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「電気代補助が復活する。2025年1月から3月まで再開されるので、経済対策として電気器具の使用の見通しがついたのではないだろうか」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…「数ヶ月前から、大手玩具メーカーが希望小売価格はそのままで仕入れ掛け率の値上げを次々に通達してきている。上げ幅の大きい商品で12%の変更となった。他のメーカーにも似たような流れが見られ、大きな危機感を抱いている」「国内の消費は横ばい、中国の大幅売上減で輸出企業は苦戦している」「今期は前年同期に比べコロナ禍が少しずつ和らぎ、前年より多少上向いている感じがある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「新富士駅の乗降客は、外国人に限れば既にコロナ前の水準に回復していると聞いた。円安を背景に今後もこの流れは続くのではないかと思う」「原材料費の上昇に各メーカーがどこまで持ち堪えるかが、今後の化粧品業界の焦点である。値上げによる買い控え、または低価格商品へのスイッチが懸念される」「文具事務用品は少しずつ上向いていくと思う」とのコメントが寄せられた。

『医薬品』…「医薬品の供給不安が続いている」「DX化に追従していくのが大変」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「生産者の減少による品不足に拍車がかかり、品物の取り合い状態になっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価高が解消されない限り、状況は変わらない」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「業界全体として、在庫過多の状況である。春需要があるので多少は改善していくと思う」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「富士山周辺のプライベートスポットとしての観光が広がっている。大人数で押し寄せるのではなく2~3人で立ち寄る感覚のようだ」「吉原商店街の近隣にタコカフェがオープンした。手軽さが売りの飲食店で、来店客で賑わっている様子だ」「富士駅・新富士駅を自転車で結ぶサイクルコネクトや、岳南鉄道に自転車を乗せる取り組みが、富士市の自転車推進として試験的に行われたようだ」「富士駅前再開発に伴い、活気が失われていく」「富士駅北側の再開発がクローズアップされているが、富士駅南側が取り残されるの

ではないかとの声を聞く。行政も駅南再開発は全く考えていないようだが、駅周辺の駐車場整備、新富士駅との連結を考えた時、富士駅南口が停留所機能として絶対に必要である。地下道を挟んだ駅南の少し離れた市営駐車場の再整備は必要だ」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	17.6	35.3	47.1	▲29.5	上 昇
売上高	11.8	52.9	35.3	▲23.5	上 昇
採 算	5.9	47.1	47.1	▲41.2	上 昇

【サービス業】 景気ムード…【 低 調 】

『飲食』…「売り上げ自体は上がっているが、それを上回るコロナ融資の返済と過剰な設備投資により、資金繰りが悪化している」「原材料の値上がりで収益が圧縮されている」「インバウンド効果により地域のお客様以外で売上の柱が出来た事は好転を表している。しかし、文化の違いによる細かい部分を伝え切ることが出来ないという課題に現場は直面していて、そこに大きなストレスを感じている従事者が多い。インバウンド客の定着は難しい段階に来ているように感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「必要経費を見直し、2～3年の踏ん張りで乗り切りたい」「商品の値上げで収益を上げていく」「外国人と上手く付き合えるようになれば、今後しばらくは安泰のように感じる。SNSを利用して外国人にどれだけ来店していただけるかが鍵となってくるだろう」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「仕事はあるが単価が低い為、量をこなさないと利益につながらない」「人員不足や採用ができないので厳しい状況が続いている」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「競合他社との過当競争が激化している状況。商品価格も値下げが進行しており、利益を圧迫している状況が続いている」とのコメントが寄せられた。

『広告サービス』…「物価高騰の影響で、各社の広告費削減が避けられない。楽観はできない」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「過当競争が続いている」「経営者が高齢の事業所では、後継者不足のところが多く、病気・死亡に伴う廃業・解散が多くなっている。また、デジタル化に遅れている事業所等は、今後の存続が困難となるところが多く、価格転嫁も難しく、ますます厳しい状況に向かっている」「人員不足が顕著になり、人が採用できない事業所の業務品質が下がっている。一方、人を何とか採用し教育出来ている事業所は仕事が増えるので二極化がさらに進んでいる」「デジタル化に伴い、各種申請業務のオンライン化が進んでいる。オンライン化で顧客が離れていく事はあまり無く、オンラインへの対応ができれば、よりスムーズな手続が可能となる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「ランプ政権の発足に伴い、今後どのような変化が起きるか想像出来ない。賃上げと人材不足に悩む事業所は増加し、必然的に各業界の差別化が具現し、市場より撤退する数も増えてくると思われる。土業はいかに付加価値を提供できるかにかかっており、今後生き残るためには、環境適応しながら努力する事が必要である」「人を雇える会社とそうでない会社の二極化傾向は拡大する」「通常の許可申請業務（建設業、古物商など）は、若手同業者の微増で新規顧客獲得の競争が生じるだろう。既存顧客の満足度を上げつつ、紹介などで価格競争に巻き込まれない営業活動をする必要がある」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「10/1より国土交通省より告示があり、貸切バス料金の見直しがなされた。バス会社として値上げする事で賃金アップも可能となり、非常に良かった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「値上げできた事は良い事だが、一方で今後の需要が下がらないかを懸念している」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「最終契約まで達せず、残庫が増えている。一方で、“土地を処分したい”“空き家を処分したい”という要望は増えており、供給過多の状況が続いている」「相変わらず供給過剰が続いている。建売住宅が増え続けている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「岳南経済の発展を望む」「物価高騰などにより消費者の購買意欲は上がらない。中小規模企業に勤務する人が多いので、大企業との格差が縮まらずしばらくは先が見通せない。海外為替などもマイナス要因が多く、不確実な状況が続くと予測する」「物件がだぶついてくると感じる」とのコメントが寄せられた。

『クリーニング』…「ダストコントロールは微増。人手不足、ランニングコストの上昇が事業運営の大きな課題となっている。特に新しい育成就労制度では外国人労働者の雇い入れができなくなる」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「各社ドミナント戦略で販売価格の低下。さらなる同業他社の参入が見込まれる」とのコメントが寄せられた。

『貸間業』…「インバウンドの回復に伴い業界全体では回復基調にあるが、当施設にはまだ影響は表れていない。催事スタイルの変化に合わせ、提供価格などの改定を検討する必要がある」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「人手不足や燃料の高騰など来年も同じく大変な年になると思う」「トランプ大統領になり、政治が分からない人が様々なインターネット発信をし、政治や経済にいろんな歪みが出て大変な年が始まる」とのコメントが寄せられた。

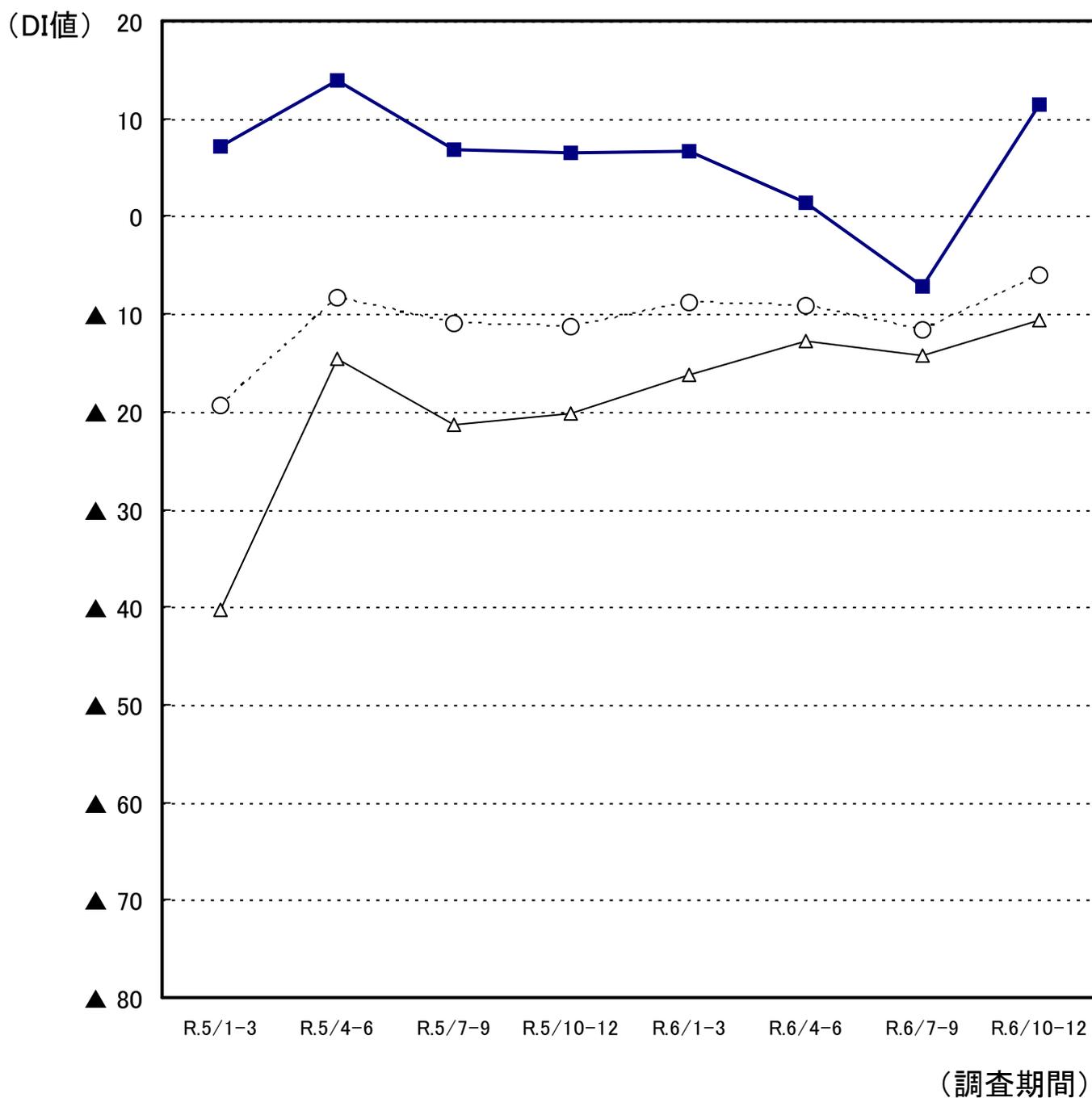
『ホテル・旅館』…「スポーツ界は全体的に安定しているとみている。アフターコロナで活動が活発化していると思う。サッカーや野球、バスケット等のメジャースポーツよりもマイナー競技の方々の活動場所が不足している。スポーツによる人流が活発化していくと思う。活動場所の確保が課題」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「英語すら話せない外国人旅行者が多くなって来たと感じるので、翻訳機器、翻訳アプリを上手く使いながらコミュニケーションをとった方が良い」「商店などの撤退が多く、更地が目立つ」「市内に限らず広い地域から仕事を集めているので、近場での仕事量は少なめである」「富士市も人口が減少する地域なので、何とか現役世代の人口減少が緩やかになるよう施策を考える必要がある」「青葉小学校区の宅地は好調だ」「年末に入り各地でイルミネーションを使ったイベントが行われている。多くの人が訪れており、唯一活性化が感じられる。このムードが広まることを期待している」「岩本山がやっと色づいてきた。富士川かりがね橋の開通で旧国道1号線（県道396号線）の慢性渋滞が解消したようだ」とのコメントが寄せられた。

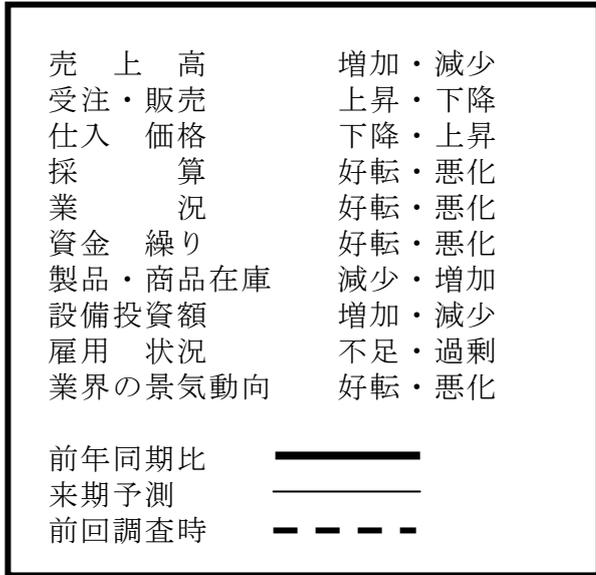
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	30.0	43.3	26.7	3.3	下降
売上高	53.3	30.0	16.7	36.6	下降
採算	33.3	43.3	23.3	10.0	下降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

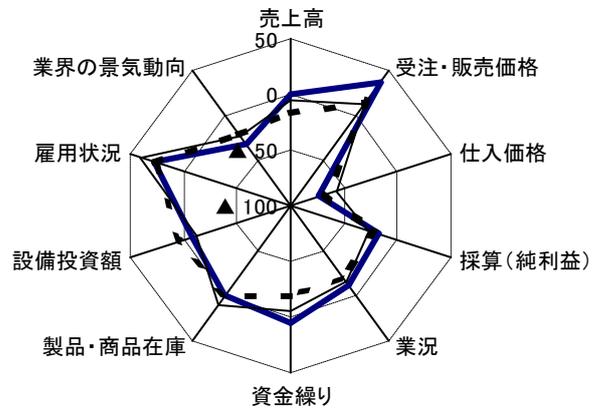
■ 売上 ○ 業況 ▲ 採算



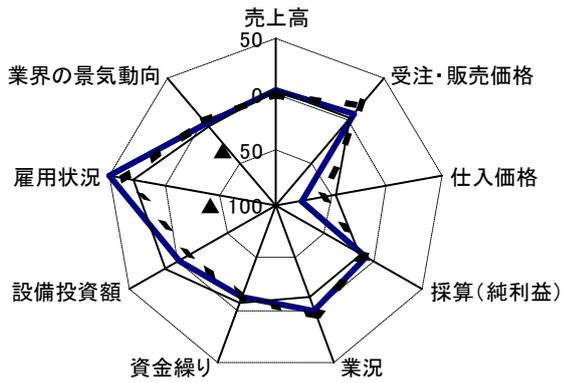
レーダーチャート



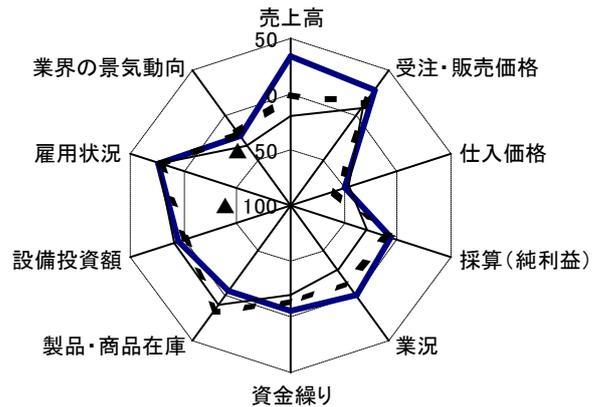
【製造業】



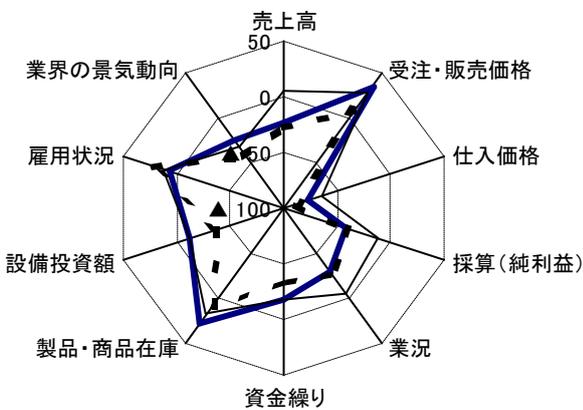
【建設業】



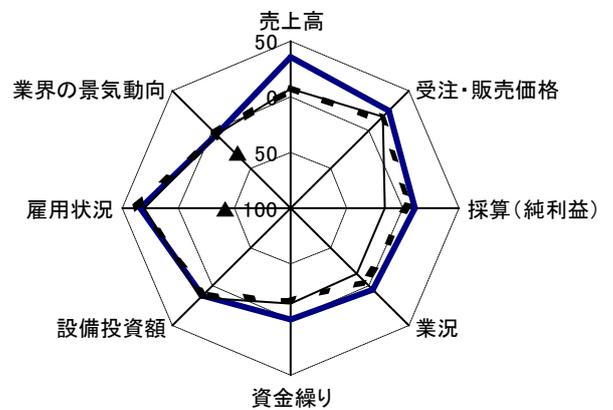
【卸売業】



【小売業】



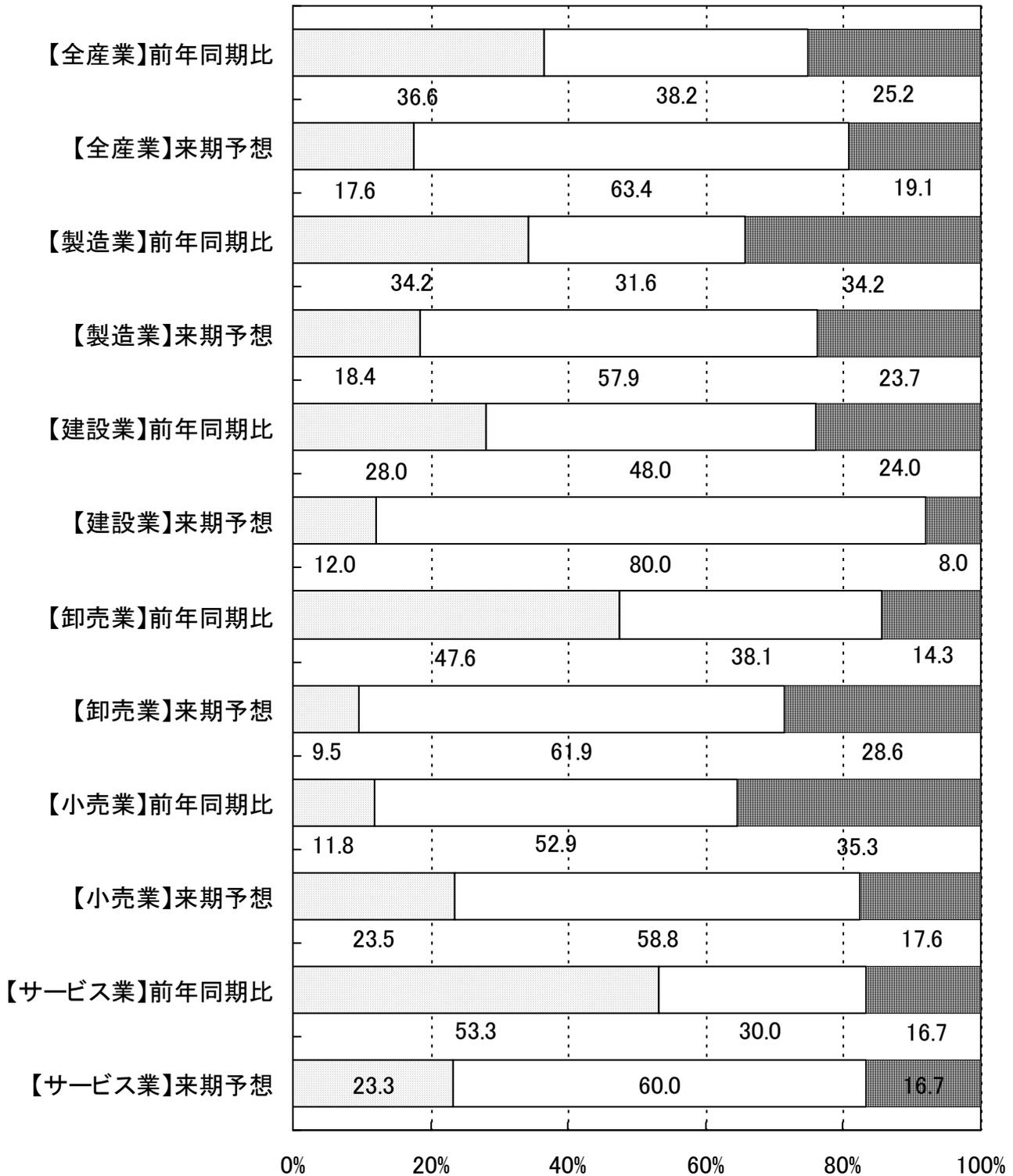
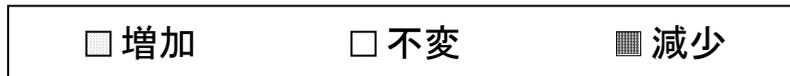
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 人件費高騰</p> <p>その他 設備老朽化</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 人件費高騰／人員不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足</p> <p>2 位 人件費高騰／設備老朽化</p> <p>3 位 人員不足</p> <p>その他 販売価格値上げ難／過当競争</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／売上、利益減による資金圧迫</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／その他の需要の低迷／設備老朽化</p> <p>その他 人材不足</p>
サービス業	<p>1 位 人件費高騰</p> <p>2 位 販売価格値上げ難／人材不足</p> <p>3 位 過当競争／商品、原材料仕入れ価格の上昇／設備老朽化</p> <p>その他 人員不足</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2024年12月24日）

日本銀行静岡支店
照会先 TEL 054-273-4106

（経済面）県内の景気は、緩やかに回復している。この間、24/12月短観をみると、企業の業況感は概ね横ばいとなっている。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。個人消費は回復している。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀）は、前月比上昇している。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。

百貨店・スーパー売上高は緩やかに回復している。コンビニエンスストア販売額は横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は持ち直しの動きが一服している。新車登録台数・販売台数は持ち直している。旅館・ホテルの宿泊数は人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：24/10月7.3 → 24/11月▲1.7%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に増加している。

（短観・設備投資額：23年度計画8.1% → 24度計画13.4%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：24/10月▲13.7% → 24/10月44.9%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：24/10月▲15.0% → 24/11月13.6% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：24/8月▲3.1%⇒9月▲0.7%<速報値>)

自動車・同部品は横ばい圏内の動きとなっている。二輪車・同部品は弱含んでいる。食料品は横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は横ばい圏内の動きとなっている。化学は横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は持ち直しの動きが一服している。紙・パルプは横ばい圏内の動きとなっている。楽器は横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：24/9月1.12倍⇒24/10月1.12倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比24/10月2.3%⇒24/11月2.9%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(24/11月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(13件<前年比：▲31.5%>)
負債総額(13億円<同：▲53.0%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：24/9月末+1.7%⇒24/10月末+1.6%)

(3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比：24/9月末0.4%⇒24/10月末0.4%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比上昇している。(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)
(水準：24/9月1.303%⇒24/10月1.321%)

以 上